

認知症

正しい理解から広がる
支えあいの輪



認知症高齢者は、予備軍（軽度認知障害）の人も含めると800万人にもなり、65歳以上では6人に1人、予備軍の人を含めると4人に1人と推計されており、認知症による徘徊などで行方不明になる人は全国で1万人に達するとも言われています。

今や誰もが認知症の人と身近な地域の中で接する機会があり、認知症の人やその家族を見守っていくために、私たちひとりひとりが認知症について正しく理解し、接することが大切です。

●認知症とは

認知症とは、さまざまな原因で脳に障害が起こり、生活するうえで支障が出てくる状態のことです。誰でもなりうる身近な病気です。

認知症の症状は、脳の細胞が壊れることで直接起こる「中核症状」と、「中核症状」に性格、環境などさまざまな要因が絡み合っ起こる「行動・心理症状(BPSD)」に分けられます。

【中核症状】

- ・新しいことが覚えられない
- ・時間や場所、人が分からない
- ・いつもと違う出来事で混乱しやすくなる
- ・二つ以上のことが重なると、うまく処理できなくなる

【行動・心理症状(BPSD)】

- ・自信を失い、意欲や気力が減退する
- ・大事な物のかたづけ先を忘れ、誰かに盗まれたと思いがち
- ・場所がわからなくなり、「生まれ故郷に帰ろう」、「家を出て行く」という言動

●大切な早期受診・早期治療

認知症は放っておくと進行する病気ですが、一方で正常圧水頭症や甲状腺ホルモンの異常など、他の病気が原因で認知症の症状が出ている場合があります。この場合は、原因の病気を治療することで認知症状が劇的に回復する

こともあります。また、最近では認知症の研究や新薬の開発も進み、認知症の約50%をしめるアルツハイマー型では、治療薬で進行を遅らせることができます。初期の段階からの治療で健康な時間を長くすることが期待されています。つまり、早期受診と早期治療により、認知症の進行を遅らせたり、症状を改善することができます。高い治療効果が期待できます。

自分自身や周りの人の「認知症では？」と思われる症状に気づいたら、「もの忘れ外来」、「神経内科」などの専門医の診察を受けることが重要ですが、まずはかかりつけ医に相談しましょう。

町内でも、認知症相談医のおられる身近な医療機関があります。認知症相談医とは認知症についての研修を受講し、患者の認知症の早期発見や、必要な場合には専門医療機関の紹介などの役割を担う医師のことです。認知症相談医のおられる医療機関や、認知症の専門医療機関の詳細は、地域包括支援センターまでお問い合わせください。

●私たちと一緒に

町では、各地域の高齢者サロンや人權学習会、中学校等で、認知症の学習会を開催しています。また「スリーA・認知症予防リーダー養成講座」を



▲地域での学習会



▲中学3年生を対象とした認知症学習会

開催します。スリーAとは、「あかるくあたまを使ってあきらめない」の頭文字「A」をとって命名された認知症予防教室で、講座では脳の活性化ゲームや認知症の人への対応の心得などを習得することができます。多くの方に受講いただき、地域の取り組みとして広げていきたいと考えています。認知症について考え、支えあいの輪を広げていきましょう。

◆問い合わせ先

介護支援課 ☎65001
地域包括支援センター ☎60001